

## 188. ICT 活用と情報管理

技術戦略部次長 山下 洋正

進学の子供となり、学生にスマホを初めて買い与える機会を迎えられる方も多いのではないのでしょうか。フィルタリングサービスへの加入が義務付けられ、保護者がきちんと管理するのは良いことですが、実際にはどのアプリ・サービスへのアクセスを許可するかの判断に加え、設定の変更ごとにパスワードが求められるなど、何かと面倒な部分もあります。

また、SNS だけでなくあらゆるサービス利用が個人情報の提供を伴い、社会人になる前から、プラットフォーム企業が牛耳る社会に否応なく組み込まれていくさまは、空恐ろしい感すらあります。

近年、下水道でも ICT 活用が推進されており、JS でも取り組みを進めております。各下水道事業者が持つ様々なデータを有効活用して事業を向上できるのは良いことですが、どのようなデータを誰にどこまで提供するのかなど、個人がスマホを管理するのと同様の課題が考えられます。

下水道のような公共インフラの情報もまた公共財だと考えると、社会全体で広く活用されること自体には異論はないように思われますが、一方で何から何まで全て公開すれば良いという単純な話でもありません。さらにビッグデータ分析や AI 活用といった分野にまで話が広がると、一層複雑になります。

現在取り組みが進められている、水処理の効率的な運転支援や設備の劣化状況把握などの施設運転管理への活用では、主として技術的情報が活用対象となっていますが、需要量予測により効率的な計画策定に使えないかなど、より財政・経営的な情報が活用対象となってくると、取り扱いにも細心の注意が求められそうです。

近年懸念されている一部の巨大プラットフォーム企業による情報独占の弊害等への留意も含め、参考にできる前例のない領域を進んでいくことになり、加えて、技術の急速な進歩に応じて、考え方自体も随時修正していくことになるでしょう。

話が比較的単純なはずの個人レベルの情報管理においても、何でも許可すると安全面で問題が生じ、全て不許可では利便性が損なわれます。当面は、管理画面とにらめっこしながら、試行錯誤でちょうどよいバランスを模索していくことになりそうです。